

中国海軍ニュース：中国は Y-8 型対潜哨戒機の生産を加速

漢和防務評論 20171004(抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

中国海軍が空軍の Y-8 輸送機を改装した対潜哨戒機 Y-8Q 型 (高新-6) の生産を加速しています。

漢和はすでに 7 機はあるだろうと予測しています。

外見から対潜哨戒機としての一応の装備はあるようですが、性能などは不明です。

配備基地は主として海南島の陵水基地で、かつて米軍 EP-3 が中国海軍 J-8 戦闘機に衝突され、緊急着陸した基地です。

グーグルアースの現在の衛星写真を見ると、Y-8Q らしい機体が 3 機駐機しているのがわかります。

KDR マドリード特電：

中国の漢中航空機会社は Y-8 シリーズ対潜哨戒機 (”高新-6” /Y-8Q) の生産を加速している。6 月の米国 (DEFENCE NEWS) 報道によると、海南島陵水飛行場で 3 機の Y-8 型対潜哨戒機を発見した。現在、同機は生産を加速している。5 月の衛星写真によると：漢中航空機会社は少なくとも 4 機の Y-8 対潜哨戒機を生産完了している。これらの機体は、”高新-6” 号プロジェクトを称される。最も重要な特徴は機体の尾部に P-3C に似た磁気探知装置を、機体の頭部に大型の対海捜索レーダーを搭載していることである。見たところ、少なくとも中国海軍は、2017 年 6 月までに、7 機の”高新-6” を装備している。

”高新-6” は、2011 年に初めて発見された。適当なプラットフォームがなかったので、”高新-6” は、依然として Y-8 シリーズ輸送機を使っている。機内の騒音のひどさは推測できる。ある種の説によると、中国は、C-919 型旅客機を軍用機に改装する可能性があるという。

試験飛行過程中的の 1 機の”高新-6” の機番は 731 号機であり、その側面のレーダー・アンテナの配列をはっきりと見ることができる。後方に 1 個偵察窓があり、写真撮影ができる。航続距離は 5000KM 以上の可能性があり、航続時間は 8 時間である。海南島に配備され、最近人工島に建設された 3 個の飛行場を利用すれば、”高新-6” は南シナ海全体をパトロールすることができる。

磁気探知装置 (MAD) の大きさは P-3C よりも大きく、長い。およそ 7M はあるようだ。設計者は、探知距離を追求したようだ。現在の分析では、中国海軍は、海南島に”高新-6” を重点配備する可能性が極めて高い。主目的は、米軍核潜水艦の探知であり、戦時、094 型戦略核潜水艦 (SSBN) の水中活動を掩護す

る。

”高新-6”が深水爆弾、魚雷或いはミサイルを装備するかどうかは不明である。このような大型の対潜哨戒機が爆弾倉を持つことは、理論上は可能だ。しかし、現在、日米は、すでに新時代の P-1 及び P-8 対潜哨戒機に換装している。P-1 は現在フランス海軍に推奨中であり、新時代の対潜哨戒機はさらに長い航続距離を有し、機内は静かである。

2月24日の解放軍報は、”高新-6”が173、171号駆逐艦と聯合対潜訓練を実施したと報道した。訓練地点は南シナ海であり、”高新-6”は海南島陵水基地に配備された機体である可能性が極めて高い。報道によると、演習は夜間に行われた。今のところ、”高新-6”と052C/Dシリーズのソナー系統のデータは、海軍のデータリンクを通じて共有されている可能性が高い。そうでなければ、聯合訓練の意義は小さい。

5月15日の漢中航空機会社の衛星写真を見ると、KJ-500早期警戒機の生産が加速しているようだ。4機のKJ-500が同時に完成し、生産速度は速いと思われる。KJ-200はすでに生産が停止された。したがってパリ航空ショーに輸出用に展示された。海軍も同様にKJ-200を装備しており、山東省の萊陽に少なくとも4機配備している。KDRは、すでに昨年、漢中航空機会社が2015年から工場を積極的に拡張し、KJ-500と”高新-6”等の特種航空機の拡大生産を準備している、と分析した。

以下のリンク先に参考画像が掲載されています。

<http://image01w.seesaawiki.jp/n/2/namacha2/1ce348159963cbb0.jpg>

以上